

平成 27 年 9 月 4 日 皇學館大学 第 1 回COCシンポジウム

【伊勢志摩で共に暮らし続けることのミライを考えあうシンポジウム】報告

9月4日に皇學館大学にて、「伊勢志摩で共に暮らし続けることのミライを考えあうシンポジウム」が終了しました。ご登壇、ご参加頂いた皆様、ありがとうございました。心より御礼を申し上げます。

壇上に生徒、学生6名と、3市5町の自治体若手職員さんに登壇頂き、いくつかの質問をさせていただきました。同時に、会場にお越しいただいた80名以上の皆さんにも、クリッカーというリモコンスイッチを使って、議論にご参加いただくプログラム構成でした。

印象深かったのは、学生さんから「駅前の活性化を」という声が多く聞かれたことです。この地方に住んでいる大人である我々の日常の交通機関は自動車であることが多く、駅前は単なる通過地点でしかありませんが、自動車や免許を持たない彼らにとっては、メインの交通機関である鉄道、バスの大きなハブである「駅」というものはとても大切な要素のようでした。

図らずも、自分で建てた「ワカモノもオトナも少しずつ変わる」という当日の目的を達成できたようでした。自動車で移動できるという「強者」の視点はどこかにおごりを含み、「田舎といっても車で少し走れば何でもあるし」という議論になりがちですが、それは多くの生徒、学生には当てはまらないということを改めて感じました。

こうやって、相手の意見をしっかりと聴き、対話によって未来を創っていく場がやはり必要だと、思いを新たにしました。

第 I 部では、清水学長と齋藤センター長から、伊勢神宮を中心とした伊勢志摩の文化性を踏まえつつ、現代的な社会課題を主体的に考えられるアクティブシチズンの養成という皇學館大学 COC のコンセプトの説明と、プロジェクトの進捗を報告させていただきました。



第Ⅱ部のシンポでは、宇治山田商業・三重大・皇學館大の生徒学生と、圏域市町の若手職員総勢 14 名によるひな段トークでした。

お題は3つ。「あなたのまちの魅力ってなんですか?」「10年後もいまのまちに住んでいますか?」「10年後に住むとしたら必要なものってなんですか?」

多様な魅力は、伊勢志摩の自然の豊かさでもありながら、課題にもつながること。「住みかた」の選択肢の多さ。住むことを想像することの大切さをそれぞれの立場から意見を出していただきました。

本学教員のコメントを踏まえて、フロアのみなさんともクリッカーを使いながら、考えあいました。若者も伊勢志摩のミライをかなり真剣に考えてる! ってことをアピールしながら、もっともって大人も若者も一緒に考えあい続けましょう!!



三重TV、読売新聞などメディアにも取り上げていただきました! ありがとうございます。
伊勢志摩地域 住み続ける未来考える